

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
経営分析				遠藤 尚秀	
	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	2年次	講義	有 (名)・無	科目等履修・聴講
授業の概要 (Course Description)					
<p>会社/自治体の企画・財務担当者、公認会計士・税理士・コンサルタント等の専門家等が、取引先(会社)の業績評価の把握、得意先・貸付先企業の与信管理、企業買収の可否・評価額の決定、資金運用の投資先の選択、監査における比較分析など様々な場面において、財務分析の能力は不可欠となる。また、学生にとっては、就職先の良し悪しの判断材料として、経営分析は極めて有用である。</p> <p>分析的手法を習得することにより、単に財務諸表の数値を表面的に閲覧するにとどまらず、様々な場面で有用な情報に加工できる応用力を育成する。</p> <p>本講義では、教員から一方的に講義をするのみならず、各受講生自身で具体的な企業の生の情報を加工し、課題を見つけて議論を深めていくことを望む。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>財務諸表分析で、民間の会社(組織)の経営成績・財政状態・資金繰りの現状を自身で把握し評価できるようになる。</p> <p>財務分析の相互関連性を理解し、今後どのような点を改善するとよいのかについて理解できる。</p> <p>他者に対して、データに基づき、自己の見識を客観的に説明できるようになる。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	決算書と経営分析				
第 2 回	収益性分析-比率分析：各種資本利益率				
第 3 回	収益性分析-比率分析：売上高利益率				
第 4 回	収益性分析-比率分析：資本回転率、棚卸資産回転率、固定資産回転率他				
第 5 回	収益性分析-実数分析：損益分岐点分析の手順				
第 6 回	収益性分析-実数分析：損益分岐点分析と短期利益計画策定				
第 7 回	成長性分析：売上高成長率、当期純利益成長率他				
第 8 回	小テストと解説				
第 9 回	安全性分析(短期資金繰り)：流動比率、当座比率				
第 10 回	安全性分析(長期資金繰り)：固定比率、固定長期適合比率				
第 11 回	キャッシュ・フロー分析：キャッシュ・フロー計算書の3区分の収支による分析				
第 12 回	バランスト・スコア・カード：財務情報と非財務情報				
第 13 回	事例発表				
第 14 回	事例発表				
第 15 回	総まとめ				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>① 指定したテキストの次回の講義内容に関する章を事前に読んでおくこと。</p> <p>② 小テスト、期末試験(振り返り)を実施するので、授業終了後は全体像とポイントを意識し、テキストや授業で配布した資料を十分に読み込み、都度、復習をすること。</p> <p>③ ニュースや新聞に絶えず目を向けて、様々な組織における経営課題についての問題意識を養うこと。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)		
評価方法	(割合)	評価基準
期末試験 小テスト 受講態度	(60%) (30%) (10%)	秀：様々な分野における管理会計の理論に関して、必要なキーワードを過不足なく用いて、論理的に客観的な説明ができ、課題を的確に解決できている。 優：キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができ、かつ、課題を理解している。 良：おおよその説明はできており、かつ、課題を理解している。 可：理論や課題の説明において、最低限の水準を満たしている。 不可：理論や課題が説明できていない。
テキスト (Textbook)		【書名】 新版 入門経営分析 【著者】 倉田三郎編集 【出版社】 同文館出版 【出版年】 2015年12月
参考書・資料等 (Supplementary Reading)		必要に応じてレジュメや事例等を配布する。 適宜、参考文献を紹介する。
備考 (Other Information)		簿記論、会計学、管理会計の学習経験があることが強く望まれる。 工業簿記、原価計算論、経営学科目も履修することが望ましい。 一方通行の授業とならぬように、可能な限り双方向の授業を実施するため、積極的な参加を望む。 授業には、教科書の他、電卓も持参すること。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)		具体的なオフィスアワーの曜日・時限については、初回に連絡する。 質問があれば下記のメールでも適宜、受けつける。 Email: endo-nhd1@outlook.jp